

資料 1

令和元年度 第2回 柏市環境審議会 (生きもの多様性プランの改訂について)

地球上の全ての生きものは、様々な個性を持ち、つながり合い支えあって生きている
生きもの豊かな個性とつながりが、様々な恵みを私たちにもたらしている
生物多様性の保全は私たちの生存に不可欠なものである

令和2年3月27日（金）午前10時～
柏市役所 本庁舎5階 第5・6委員会室

生きもの生息空間をめぐる課題整理

1. 現行計画において、生きもの多様性の保全・再生に重要な地区としていた市内37地点の10年間での変化として、完全消失が2地点、一部もしくは大部分の消失が19地点、残存が16地点という状況となっている。
2. 植生の保全を目的とした手入れが定期的に行われているか否かで植生が維持される度合いに差が生じる。
3. 荒廃地において重点的に保全活動を行った結果、植生の大幅な回復を図れた事例が複数みられた。
4. 高齢化と担い手不足により、既存の生きもの生息空間の保全でも将来性が乏しい状況に陥っている。
5. 活動団体の解散や活動者の引退による、保全のためのノウハウの散逸のおそれ



喫緊の課題は、将来的な人的リソースをどのように確保していくか

改訂の方向性（素案）

生きもの多様性をより身近なものとして市民に広く理解してもらうために

施策の整理

手賀沼を中心にした
柏市の生きもの多様性の
保全に携わる志向の標準化

現行施策の
選択と集中
(携わるアクターの拡張)

既存施策を活用した
市民への理解の浸透

生息空間保全に携わる
人の裾野を拡大

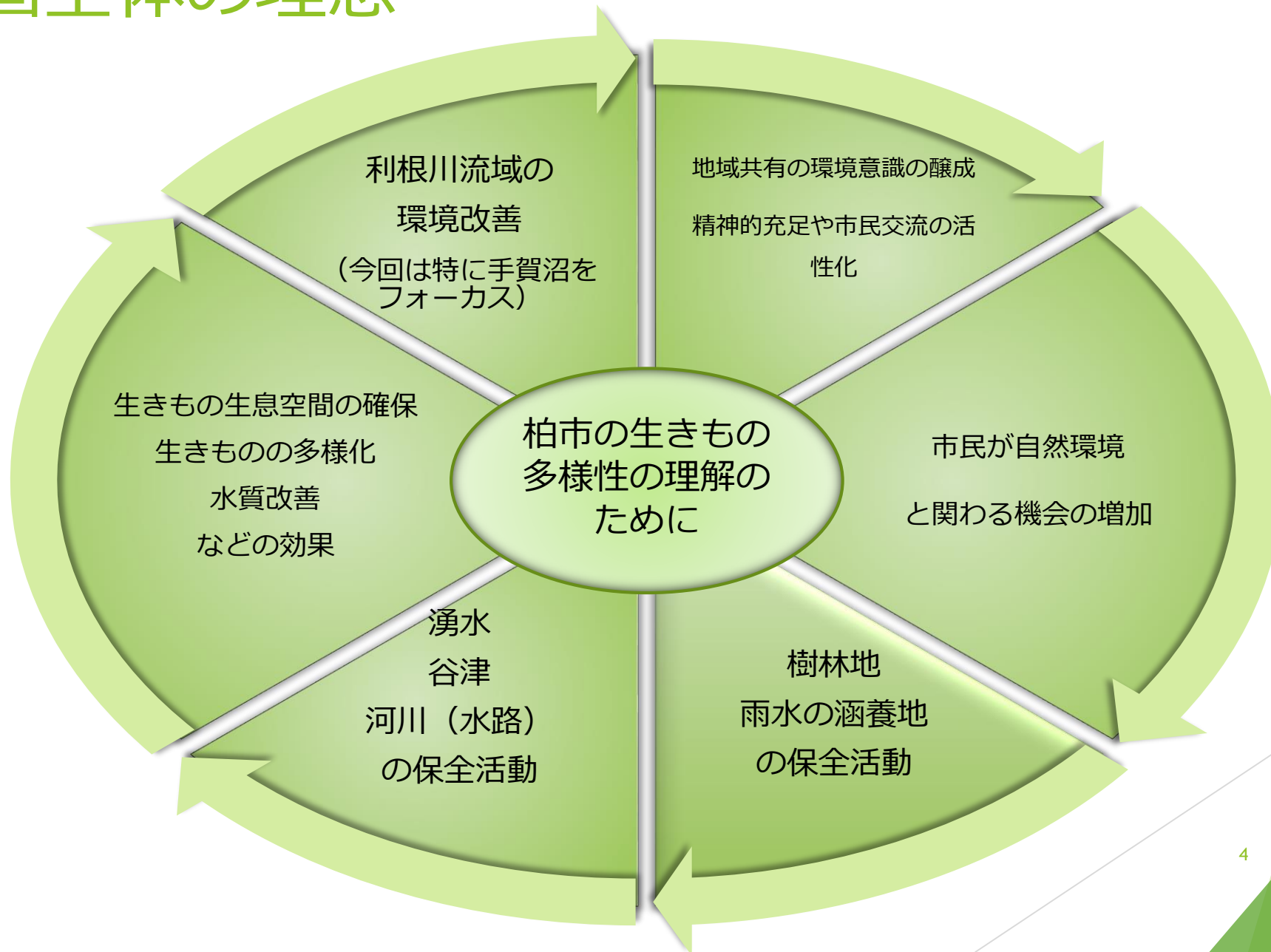
今後の展開

第一期
生息空間保全が行われ
ている地区の取り組みを
活用した裾野の拡大

第二期
様々な主体による生息
空間の保全

第三期
次世代や新たな担い手
への引継ぎ

計画全体の理念



生きもの多様性に関わる裾野の拡大とは・・・

自然の入口
に幅広い層
の人に来て
もらう

知ってもらう

興味を持ってもらう

見ってもらう

思ってもらう

もっと関わりたいと

楽しんでもらう

体験してもらう

自発的に自然環境と関
わる機会の増加

保全活動への参加

⇒保全に関するノウハ
ウの継承

⇒別の場所での新たな
保全活動への発展

生物部会で提示された施策の方向性 に関する主な意見

- ▶ 市民団体の交流・連携の場づくり
- ▶ 保全活動団体の周知・紹介
- ▶ 生きものとの共生・共存を取り入れた暮らしの在り方への理解
- ▶ まちの中に生きもの生息環境があることへの理解
- ▶ 地域の実情に基づいた、特定外来生物をはじめとした外来種への対応
- ▶ 庁内連携の強化（特に手賀沼関連事業に関して）

今後の主な検討事項案

① 施策に関する事項

- ・ 生きもの多様性を身近にするためには
- ・ 既存の保全地区の活用法
- ・ 外来生物への対応

など

② 重点施策の整理

③ 評価指標の検討

④ 実施スケジュール

⑤ 推進体制